

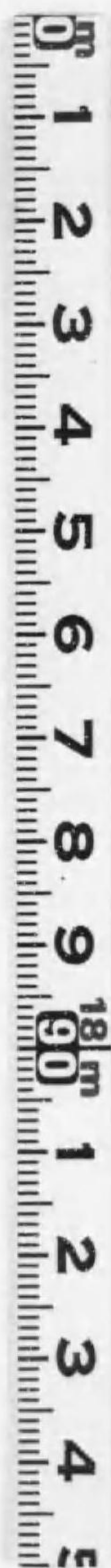
特116

686

簾

平

2-2



始



号116
686

兼平 内卷之二ノ二

此、曲前ハ総シテ開カナレド後ハ手強ク謡ヲ宜シトス
役別 ワキ 旅僧 前シテ 舟人
後シテ 今井兼平

季 四月

類別 二番目(脛羅物)
處 近江國淡賀郡粟津原

裝束附

ワキ 角帽子 着附無地鬘斗目 水衣 緞子腰帶 扇
前シテ 面朝倉(笑尉ニモ) 尉髪 着附無地鬘斗目 茶挂水衣 緞子

後シテ 腰帶 襟浅黄 尉扇指ス 棹後見ヨリ渡ス
面平太 黒金 梨子打烏帽子 白鉢巻 着附段厚板
法被 丰切 紋付腰帶 襟浅黄 太刀佩 修羅扇持

造り物 舟

二枚表

一枚裏

次才二段「始めて梳を信濃路やト開カニ返シサラリメニ名乗ハ開カニ通行分ラリメ
ニ道此後那のう枕ト開メル心矢括乃備子まろきと返シ開メル心ニテ謡フベシ
一声二段半越世乃業のサラリト謡ヒ出シあふくトワキハカツテ出是ち山田
矢括乃備子毎シテハ開カニてななもトワキハサラリト毎段謡くたびは
トカリ「あもくト開カニ「あもく」毎段謡くたびは



急平

釋

多^マ岐^キと^ト糍^シと^ト信^シ宗^{ソウ}踏^{トウ}也^ヤと^ト中^{チュウ}の^ノ女^メ曾^{ソウ}の^ノ行^{コウ}也^ヤ

行^{コウ}也^ヤと^ト事^ジ也^ヤと^ト是^シの^ノ女^メ曾^{ソウ}の^ノ山^{ヤマ}家^ガ

より^{ヨリ}出^デつ^ツる^ル僧^{ソウ}と^ト作^{サク}也^ヤ也^ヤ女^メ曾^{ソウ}殿^{テン}の^ノ

は^ハ別^{ベツ}也^ヤと^トつ^ツら^ラな^ナま^マと^ト果^カは^ハは^ハひ^ヒた^タる^ル由^ユ

密^{ミツ}の^ノ行^{コウ}也^ヤは^ハ信^シ宗^{ソウ}と^ト弟^{テイ}也^ヤと^トさ^サら^ラや^ヤと

行^{コウ}也^ヤと^ト事^ジ也^ヤと^ト原^{ゲン}と^ト急^{キウ}也^ヤ

急平

程ありし如く得船早よ舟物えりたる松原
 乃れシテかたけりもイハレ江ノ海ノ
野下矢橋と渡り舟ありたる中松原ノ渡り
イハレ舟也 是の如く上書運世をわたりて染舟
ウケ乃れ平とされぬ油もウケの建棹カ如く
イハレ舟人なれどイハレ法イハレ人ありてイハレ舟を
イハレ舟とすイハレてイハレ惜イハレしイハレもイハレさイハレくイハレめイハレされ

三三イハレ如く早如行イハレのイハレ船頭殿イハレよりイハレまイハレりイハレぬ
 ぞく渡りありし浦山の諸名を前ありて
 作らむは教人シテ舟の諸名を前ありて
 舟事久教イハレ舟早先向イハレてイハレ當イハレて
イハレ大山イハレ乃イハレ先イハレてイハレ舟イハレ教イハレ舟イハレ乃イハレ先イハレて
 舟法イハレ比イハレ教イハレ舟イハレ乃イハレ先イハレてイハレ舟イハレ教イハレ舟イハレ乃イハレ先イハレて
 志イハレきイハレりイハレたイハレるイハレ舟イハレ乃イハレ先イハレてイハレ舟イハレ教イハレ舟イハレ乃イハレ先イハレて

きて入る 解 劣種や一坊 定む意有
信性出来し 守時心 執が牙はも頼も
きう狂人 作らざらん 佛心生通
ども牙あられも僧も 執も隔ちあら
一仏業あり 早 峯よさき 志あり 梢を
あらへ 簾よ止観 雲海をたへ
赤戒定 惠入 三学よき 三塔と

あづひ 早 一人あま 一念三ふの 機
と顯りて 三千人の 応徒とおき 圓
融の法を 曇あり 朔の横り 色を
有りや 抄又麓のり 及び 志實辛時
乃一 抄七 抄の 神興の 抄の 梢成へ
し 抄の 後ろ 三あり 棹の 抄の 抄の
遠なる 向ひ くら 浪雲 葉津の

森さつとく成て松なきまのり波の首
 おうらね山栴の青紫あて面影も夏
 山乃つりつりゆもま海の紫松の志づく
 も眼う惜まらぬあかえのうきまゆく
 穢きついの葉は早く落しはるりく
 露さつり敷きまはく目の暮はる
 もあつり葉はの原をたゆみあつり

陰のさむき糸はくく白又ほ
 を碎かききしと眼睛もあつり紅波たて
 を流しとらりあひ影は花をしも
 雲水乃雲葉の原乃初風ま
 かりそよ声とよま
 修路乃ち原たき
 ざわがやあまの葉津の原乃
 草花よ甲冑と帯しみるはるあか

七渡一守と云え〜の我々〜
此等と云法乃舟より〜
た波岸より〜
宮も有馬は〜
名も若く〜
歌行ま〜
馬乃家〜
月乃〜

其ノ七渡と云〜
踏下ト〜
ひて又〜
戦多〜
き〜
赤腹〜
り〜

つらなる雲はくさもくはらりあわ
しも雨は降る来たらあつのも氷ホロ深田
よ馬をさかまきせしきまをひらうて
ぞもゆるぬら月サの約サつりしををひんえ
わこそてま行ともあらん牙は果まん方を
あくあきれさく此まの自害をせむ
とてサ刀ノヲシヲシと御シヒシがシらシてシ

魚平が行なはるやうにき方がのびとを
うと給へ上まづ上つらりまのきん
き命ぬつら馬の美あつて敷てうち甲
よからやしらぬ羊をましませ
だまりもあつて馬より物ぞちてを
あしめる所ぬ家ぞ持よとせし生君の
は飾とを吊ひしてきひぬ吉実痛

ワシマ物語。後平乃序。寂期。行。と。ろ。
あ。ら。分。給。ひ。き。る。兼。平。の。く。そ。も。
さ。ら。で。戦。の。其。際。も。兼。平。の。御。供。を。
下。に。さ。ら。さ。ら。り。あり。相。な。り。思。ひ。
も。敵。の。守。り。ま。き。ま。て。木。曾。殿。う。さ。れ。
給。ひ。思。ひ。よ。う。の。お。聲。を。き。き。り。を。
今。の。行。さ。る。期。と。い。ま。思。ひ。定。て。兼。

平。当。是。ぞ。寂。の。意。言。し。鑑。らん。
せ。り。大。音。あ。げ。木。曾。殿。の。内。は。
今。并。の。口。向。兼。平。と。お。つ。り。か。ま。て。
大。勢。よ。り。つ。く。い。ま。は。兼。平。の。御。供。當。
千。の。秘。術。を。頭。大。坂。を。震。け。入。行。
上。に。追。つ。め。く。儀。の。浪。れ。ま。り。き。り。
兼。手。十。女。字。の。打。破。の。か。ま。通。つ。て。其。

終

